

セミれば！
～セミナー・イベントから見るデータ利活用最前線～

HITACHI
Inspire the Next



データ利活用セミナー

～ ビッグデータ先進テクノロジーによる新たなデータ利活用プラットフォームのご紹介 ～
2019年3月7日(木曜) 品川・ハーモニアス・コンピテンス・センター



“ビッグデータ”や“IoT”といった言葉は、新聞・雑誌・Webサイトで見かけない日がないほど一般的になりました。客観的な数値をもとに定量的な分析に基づいた戦略の企画、実行を指向する企業が増えてきている証拠と言えるでしょう。

しかし、データ利活用には難しい点や気をつけるべきポイントが多く、新サービスや技術革新のサイクルが激しい分野でもあります。データ利活用を進めていくその前に、日頃からの情報収集が大切ですよ。

このセミれば！(セミナーから見るデータ利活用最前線)では、セミナーのレポートを通じて、データ利活用の最新情報をお届けしていきます。

上：株式会社日立社会情報サービス 産業・社会ソリューション部 町田による「データ利活用のはじめかた ～検証から導入までの実践ガイド～」の様子。ハーモニアス・コンピテンス・センター(東京：品川)にて。

私たちを取り巻くデータは日々増加を続けています。リアルタイムに発生する、大容量で多様なデータ。このようなビッグデータをビジネスに活用することは、一般的になりつつあります。しかし、データ量の増大に伴うデータ利活用システムのコスト増大・非構造化データへの対応・ストリームデータの取り回しなど、データ利活用への課題が大きく立ちはだかっているのが現状です。

本セミナーでは、データ利活用における国内外のトレンドをはじめとし、先進テクノロジーによる新たなデータ利活用プラットフォームをご紹介します。

データの流れに着目した、これからのデータ利活用

右：データ活用が生み出す価値と経営効果について——
…ビジネスの現場におけるデータの活用シーンは広がり続けています。企業経営においてデータの活用は前提となりつつあり、さまざまな業務で付加価値の向上に向けた取り組みが行われています。

日立社会情報サービスは、データの可視化分析のプロフェッショナルとして、産業・金融・公共・医療・製薬・ヘルスケアなど幅広い業種に向け、これまで300社以上のデータ利活用ソリューション導入に携わってきました。

近年は、より大規模なデータを、より高速に可視化するニーズが高まっています。その一方、簡単にデータを複製・移動することが困難となっていることや、従来のBI(Business Intelligence)プラットフォームによる膨大なデータの可視化・仮説検証が難しくなっているという課題があります。

増え続ける構造化データや非構造化データに対するアドホックな分析、リアルタイムデータへの対応と、将来的なAI活用を視野に、スケーラブルなデータレイクによるデータ利活用の必要性が高まっています。

右：データ利活用の全体イメージ——
…プロジェクトのスコープやデータ量、種別にあわせて適切な仕組みをご提案します。

✓ 当日のプログラム

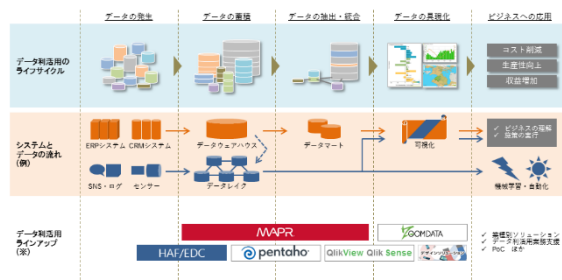
- 日立社会情報サービスが提供するデータ利活用ソリューションのご紹介
株式会社日立社会情報サービス マーケティングセールス部 津田 寿
- Hadoopのコンセプトを活かしたエンタープライズ向け分散ファイルシステム
マップアール・テクノロジーズ株式会社 朝枝 浩毅 様
- 大規模IoTデータの可視化・分析プラットフォーム
Zoomdata Japan株式会社 山本 豊 様
- データ利活用のはじめかた ～検証から導入までの実践ガイド～
株式会社日立社会情報サービス 産業・社会ソリューション部 町田 治実



データ利活用の全体イメージ

◆データの流れに着目した、これからのデータ利活用

増え続ける構造化データや非構造化データに対するアドホックな分析、リアルタイムデータへの対応と、将来的なAI活用を視野に、スケーラブルなデータレイクによるデータ利活用の必要性が高まっています。



先進テクノロジーによる新たなデータ利活用プラットフォーム

左：マップアール・テクノロジー株式会社 朝枝 浩毅 氏による「Hadoopのコンセプトを活かしたエンタープライズユース向け分散ファイルシステム」講演の様子。

右：Zoomdata Japan株式会社 山本 豊 氏による「大規模IoTデータの可視化・分析プラットフォーム」講演の様子。

—Zoomdata社と当社は2019年1月に販売代理店契約を締結し、ビッグデータの高速な可視化分析を特長とするソリューション提供していくことで合意しました。<ニュースリリースはこちら>
<http://www.hitachi-sis.co.jp/newsrelease/2019/190130.html>



MapR …Hadoopのコンセプトを活かしたエンタープライズ ユース向け分散ファイルシステム

使い慣れたファイルシステム(NFS)のアクセシビリティとビッグデータ処理とを両立するHadoopディストリビューション、MapRをご紹介します。

信頼性の高い大規模ストレージとして、機械学習のプラットフォームとして、分散拠点のデータ収集統合基盤として……。GPUによる高速処理やコンテナのサポートなど最新の技術を取り入れ、次世代AI-IoT基盤として既にさまざまな企業で採用されています。

豊富な導入事例から業種、業務のデータ利活用の最前線の様子を伝えていただきました。



Zoomdata …大規模IoTデータの可視化・分析プラットフォーム

ビッグデータ先進テクノロジーによる新しいビジネスインテリジェンス、Zoomdataをご紹介します。

グローバル前年度比で200%以上の成長を実現しているZoomdataは、大規模データ・非構造化データ・ストリーミングデータに対するアドホックな分析を可能とし、データソースの移動を無駄に生じさせない効率的なデータ利活用を実現しています。

データ利活用のリアルタイム性と操作性が実現するマーケティングの高度化、サイロ化したペタバイトオーダーのデータ統合と横断的な可視化など、最新の事例を伝えていただきました。

データ利活用のはじめかた

右：株式会社日立社会情報サービス 産業・社会ソリューション部 町田による「データ利活用のはじめかた ～検証から導入までの実践ガイド～」の様子。

データは蓄積され、変化する前提に立てば、データ利活用のシステムに完成形はありません。このため、データの発生から目的に応じた活用までのサイクルをいかに上手く回せるかが、データ活用プロジェクトの成否を左右します。

BIツールの普及が進み、データの具現化が非常に容易になりましたが、データ活用プロジェクトの直面する困難は10年前からそれほど変化していません。システムと業務が実際に折り合うかどうか重要なポイントとなるため、ツールの使い勝手以上に、その前後のプロセスをきちんと考える必要があります。

データ利活用の目的やデータの性質、検討ステージにあわせて、いろいろな選択肢がありますが、ポイントは大きく2つです。

- ✓ 既存のシステムを生かしながら、まずは必要な範囲に限定してデータ連携を行うこと。
- ✓ トライアルで進めていく業務や部門を決め、そこできちんと結果が出せることを早期に確認すること。

当社が提供するデータ活用トライアルプログラムでは、これらの点に留意し、実際のデータ活用プロジェクトで必要となるプラットフォームの選定と、運用サイクルの構築をお客さまとともに進めていきます。

10年以上にわたり培ってきたデータ活用ノウハウを生かし、お客さまのデータ利活用を強力にご支援します。

今後もさまざまな切り口でセミナーを開催してまいります。次回のご来場をお待ちしております。

右：データ活用プロジェクト 検討のポイント
…当社は、スモールスタートで早期に結果を確認し、段階的に効果を大きくしていくアプローチを推奨しています。

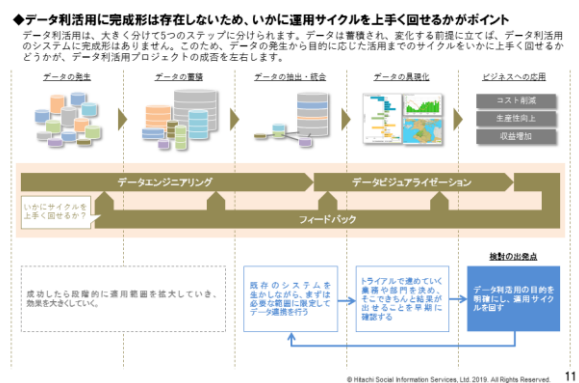
データ利活用に関するご相談からPoC申し込みまで以下のサイトで承ります。
https://inquiry.hitachi-sis.co.jp/webapp/form/21057_xdfb_93/index.do?a=46

Zoomdata紹介ページはこちら。
<http://www.hitachi-sis.co.jp/zoomdata/>
イベント・セミナーに関する情報は、当社ホームページからご覧いただけます。
http://www.hitachi-sis.co.jp/events/index_ex.html



データ利活用プロジェクト 検討のポイント

HITACHI
Inspire the Next



お問い合わせ・ご相談は、株式会社日立社会情報サービスまで

* 記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
* 本カタログの内容は、2019年3月現在のものであります。

 株式会社 日立社会情報サービス
<http://www.hitachi-sis.co.jp/>